

## 平成26年度授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	工業科教育法(A Method of Industrial Education A)		授業コード	K001901
担当教員名	高山 勲		科目ナンバリングコード	
配当学年	3	開講期	前期	
必修・選択区分	必修(教職)	単位数	2	
履修上の注意または履修条件	工業高校の教員に必要な教科-工業免許取得のため必要です。工業免許取得を考えている方は、学部・学科を問わず必ず受講してください。			
受講心得	将来教師になるのに相応しい服装及び学習態度で授業に臨むこと。			
教科書	工業科教育法の研究 (実教出版)			
参考文献及び指定図書	高等学校学習指導要領解説 工業編 文部科学省			
関連科目	教職概論、職業指導、教育方法技術論			

授業の目的	工業の教科指導を実践する場合、どのように指導したよいか。また、理解度を深めるために副教材や試験問題作成など最初は、基礎知識がないため、戸惑うことが関gなえられます。また、指導方法や教材方法は経験を積み重ねることにより向上し、自分にあった指導方法を見つけることができます。本授業では、教科指導を実践する基礎知識、教材作成方法を通して「教材とは」を理解することが目的です。
授業の概要	講義の前半は、天然資源がない日本では産業の発達が大切です。日本の産業の発達には工業教育が基礎になっています。このことを理解する目的で工業技術と工業教育の歴史を解説します。後半は学習指導要録について解説します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
<b>第1週：学校教育における工業教育の役割と課題</b> ・学校教育と教師の役割と学校教育の機能、使命について論じます。	配布資料 テキスト
<b>第2週：学校教育における工業教育の役割と課題</b> 工業教育の理念について論じます。	配布資料 テキスト
<b>第3週：工業教育の歩み</b> わが国の黎明期の工業教育と戦後の教育を論じます。	配布資料 課題 テキスト
<b>第4週：諸外国の工業教育の歩み</b> ドイツ、アメリカのなどの工業教育について論じます。	配布資料 課題解答 テキスト
<b>第5週：工業高等学校教育の実際</b> 工業高等学校教育の教育課程編成及び教育課程の役割について論じます。	配布資料 課題解答 テキスト
<b>第6週：工業高等学校教育の実際</b> 工業科学習指導法と教育評価について論じます。	配布資料 課題解答 テキスト
<b>第7週：工業高等学校学習指導要領解説 I</b> 科目「工業」で指導する専門学科と大学関連科目を論じます。	配布資料 課題解答 テキスト
<b>第8週：工業高等学校学習指導要領解説 II</b> 科目「工業」で指導する専門学科の目標と指導内容について論じます。	配布資料 課題解答 テキスト

<b>第9週：工業高等学校学習指導要領解説 II</b> 科目「工業」で指導する専門学科の目標と指導内容について論じます。	<b>配布資料</b> 課題解答 テキスト
<b>第10週：年間指導案</b> 年間指導計画の指針となる年間指導計画を解説し、その後に実際に年間指導計画を作成し、提出します。時間内に作成できない場合宿題とします。	<b>課題</b> 年間指導計画作成・提出
<b>第11週：学習指導案2</b> 授業で、導入、展開まとめを書いた学習指導案の解説を行い、その後に学習指導案を作成し、提出します。時間内にできない場合は宿題とします。	<b>課題</b> 学習指導案作成・提出
<b>第12週：進路指導とインターンシップ</b> 進路指導の教育的意義・指導計画やインターンシップについて論じます。	<b>配布資料</b> テキスト
<b>第13週：教材ノート、教材プリント</b> 教科指導を行う際の道具とも言える、教材ノートや教材プリントさらにDVDを利用した指導方法などについて解説を行います。	
<b>第6週：進路指導とインターンシップ</b> 進路指導の教育的意義・指導計画やインターンシップについて論じます。	
<b>第15週：工業実習と課題研究</b> 科目「実習」についての指導方法と課題研究の指導方法について論じます。	
<b>第16週：期末試験</b> 工業の教育の歴史、指導要録について試験を行います。 筆記用具以外は持ち込み禁止とします	
<b>第17週：板書方法</b> 実際に教室の黒板に、個人で10分程文字を書きます。書く内容は、授業で書く内容と想定します。目的は、黒板に記載する文字の大きさの把握です。	
<b>第18週：自己紹介</b> 個人差はありますが、授業時は後ろまで声が届くこと時間の把握が求められます。このため、自己紹介を10分で行います。	
<b>第19週：模擬授業</b> 授業は原則50分ですが、10分短縮して40分の模擬講義をしていただきます。このために必要な学習指導案の作成を行います。時間内にできない場合、課題とします。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第20週：模擬講義実践</b> 19週で作成した、学習指導案を基にし模擬講義を実践していただきます。受講生は、生徒と想定します。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第21週：模擬講義実践</b> 19週で作成した、学習指導案を基にし模擬講義を実践していただきます。受講生は、生徒と想定します。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第23週：模擬講義実践</b> 19週で作成した、学習指導案を基にし模擬講義を実践していただきます。受講生は、生徒と想定します。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第24週：模擬講義実践</b> 19週で作成した、学習指導案を基にし模擬講義を実践していただきます。受講生は、生徒と想定します。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第25週：模擬講義実践</b> 19週で作成した、学習指導案を基にし模擬講義を実践していただきます。受講生は、生徒と想定します。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第26週：模擬講義実践</b> 20週から行った模擬講義を改善し、もう一度模擬講義を実践していただきます。今回は、評価の対象とします。	<b>課題</b> 教材研究
<b>第27週：模擬講義実践</b> 20週から行った模擬講義を改善し、もう一度模擬講義を実践していただきます。今回は、評価の対象とします。	<b>課題</b> 教材研究

<b>第28週：模擬講義実践</b> 20週から行った模擬講義を改善し、もう一度模擬講義を実践していただきます。今回は、評価の対象とします。		<b>課題</b> 教材研究
<b>第29週：模擬講義実践</b> 20週から行った模擬講義を改善し、もう一度模擬講義を実践していただきます。今回は、評価の対象とします。		<b>課題</b> 教材研究
<b>第30週：教育実習</b> 生徒との接し方や空き時間さらに事務処理など、教育実習の心構えについて説明します。		
<b>授業の運営方法</b>	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「オムニバス方式」
	(3) アクティブ・ラーニング	
<b>備考</b>		

<b>○単位を修得するために達成すべき到達目標</b>	
<b>【関心・意欲・態度】</b>	①工業の教員は、自分の所属する学科以外も教えることもある。このため、所属する学科以外の教科科目についても積極的に取り組むことができる。
<b>【知識・理解】</b>	②指導案、学習指導案とは何かを話すことができる。 ③教材、教具について話ができる。
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b>	④積極的にコミュニケーションすることができる
<b>【思考・判断・創造】</b>	⑤指導案、学習指導案を適切かつ自分の言葉で書くことができる。

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	100点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
<b>【関心・意欲・態度】</b> ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。		10点	15点	
<b>【知識・理解】</b> ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。	50点			
<b>【技能・表現・コミュニケーション】</b> ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
<b>【思考・判断・創造】</b> ※「考え抜く力」を含む。		10点	15点	
<b>(「人間力」について)</b> ※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	年間指導目標や、学習指導案を丁寧にかつ、自分の言葉で書いていること。
発表・その他 (無形成果)	模擬講義は、声の大きさ、板書ではわかりやすく見やすい板書さらに時間の把握を対象とします